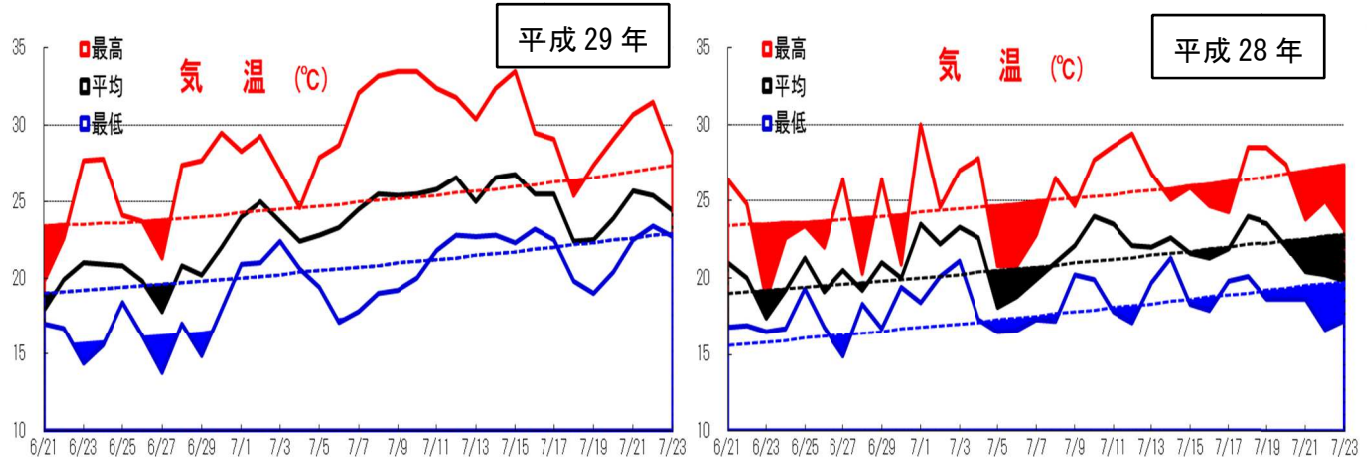


～葉色の淡い圃場が多く、減分期追肥を実施する。～

1 気象経過（6月下旬～7月下旬：古川）



- ・ 6月下旬～7月も高温が継続
- ・ 特に7月上旬～中旬が顕著
- ・ H29は、期間通じ高温（H28は高低あり）
- ・ 7月上中旬、平均3℃以上、最高で5℃程度高温

気温と平年差(℃)

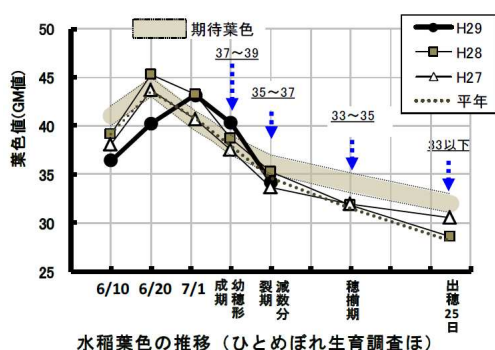
月	平均	最高	最低
6月下旬	20.1	25.2	16.2
平年差	0.7	1.5	0.1
7月上旬	24.2	29.8	19.7
平年差	3.7	5.0	0.3
7月中旬	25.1	30.1	21.7
平年差	3.2	4.0	3.0

2 生育状況

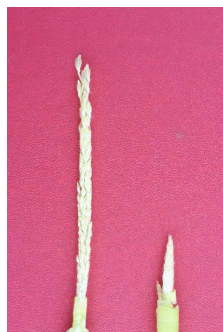
〔7月20日：最終〕

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉 色			幼穂長 (mm)		
	本 年	前年比	平年比	本 年	前年比	平年比	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)	(GM値)	(GM値)	(GM値)			
	71.3	101	102	522	104	102	12.2	0.3	0.3	33.8	-1.0	▲ 0.7	63.1	10.6	18.8

- ・ 草丈71.3cm（平年比102%）とやや高く、茎数509本/㎡（平年比103%）とやや多く、葉数12.1枚（平年差+0.3枚）で平年より若干進んでいる。
- ・ 葉緑素計（GM）値33.8（平年差-0.7ポイント）、幼穂長63.1mm（平年差+18.8mm）となっている。
- ・ 県内各地の圃場で減数分裂期を迎えていることから、幼穂長を確認すること。
- ・ 出穂期は、平年より2日早い8月3日頃（平年は8月5日）になる見込みである。
- ・ 葉色を示すGM値は、前回調査（7月10日）より急激に低下している。



水稻葉色の推移（ひとめぼれ生育調査ほ）



3 今後の管理

(1) 肥培管理

- ・圃場で主茎を数本抜いて、幼穂の発育状況を確認し肥培管理に努める。
(減数分裂期 3~12cm)
- ・穂揃期の葉色を33~35ポイント(ひとめぼれ)で推移させる
- ・追肥は、通常通りとするが、葉色を見ながら、一発肥料施用でも追肥を検討する。



出穂期の予測(7月20日現在, 古川農試)

地帯区分	田植時期 (始期~終期)	出穂期 (始期~穂揃期)
北部平坦	5/2~5/19	7/28~8/8
南部平坦	5/3~5/19	7/24~8/4
仙台湾沿岸	5/3~5/23	7/27~8/11
西部丘陵	5/7~5/26	7/30~8/13
山間高冷	5/7~5/27	8/13~8/20
三陸沿岸	5/7~5/25	8/7~8/17

県全体の出穂予想

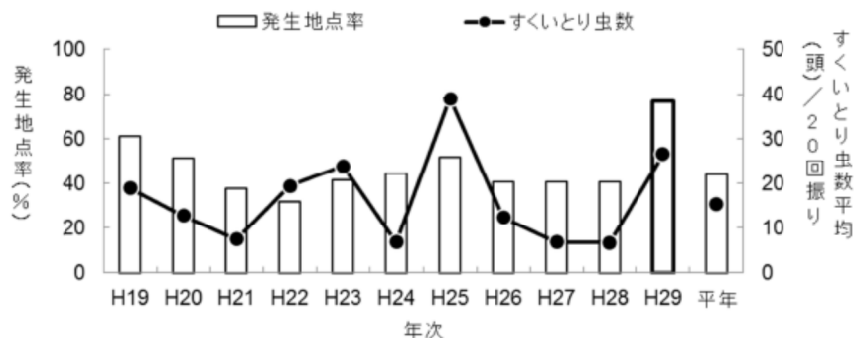
8月3日

(平年8月5日)

**高温のため早まる
ことが予想され
る。**

(2) カメムシの発生と防除(病害虫防除所: 発生予察注意報2号)

- ・アカスジカスミカメ成虫の水田侵入始期は平年並と推測される。
- ・第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早い7月第4半旬(7/16~7/20)と推測される。
- ・誘引源となるイヌホタルイが42.0%(69地点中29地点)のほ場で残草していた。
- ・出穂前10日までに草刈りを終え、薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本



〔参考〕今後の気象予報

- ・今後とも高温傾向が予想されており、気象情報に注意！！

【1ヶ月と週間の気温, 降水量, 日照時間の確率(%)】

【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	20	30	50
【日照時間】	東北地方	40	40	20
1週目	東北地方	10	30	60
2週目	東北地方	20	50	30
3~4週目	東北地方	20	40	40